

指導資料



鹿児島県総合教育センター

地理歴史・公民 第9号

—高等学校・特別支援学校対象—

平成22年4月発行

新学習指導要領における高等学校地理Bの改訂の趣旨と 具体的な地誌的考察方法を基にした地理授業の展開例

平成21年3月、高等学校学習指導要領が改訂された（以下「新学習指導要領」という）。平成25年度から学年進行で実施されることになるこの新学習指導要領を踏まえて、本稿では、高等学校地理Bの改訂の趣旨と、その中で充実が求められている地誌学習の展開例について述べる。

1 新学習指導要領における高等学校地理Bの改訂の趣旨

今回の学習指導要領の改訂は平成20年1月の中央教育審議会の答申を踏まえて行われたものであるが、この答申の中で地理Bについては、

- 現代世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、人種・民族などに関する地理的事象の分布やその要因などについて体系的に考察させるとともに、それらの学習で習得した知識、概念や地理的技能を活用して、世界諸地域の地域的特色や歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察させ地理的見方や考え方を培うことを一層重視する。

と述べられている。これを受け、新学習指導要領における地理Bの目標は次のように設定された。

現代世界の地理的事象を系統地理的に、

現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

この目標について、平成21年12月に出された高等学校学習指導要領解説地理歴史編（以下「地理歴史編」という）では、「現代世界の地理的事象を系統地理的に考察し、その成果を受けて現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、もって現代世界の地理的認識を深めさせるとともに地理的な見方や考え方を身に付けさせるというこの科目の基本的なねらいを示している」と述べられている。（波線部は筆者による）

さらに、大項目は次のように再構成されている。

現 行	新
(1) 現代世界の系統地理的考察	(1) 様々な地図と地理的技能
(2) 現代世界の地誌的考察	(2) 現代世界の系統地理的考察
(3) 現代世界の諸課題の地理的考察	(3) 現代世界の地誌的考察

こうした大項目の再構成等を踏まえ、次のような改善が行われた。

- ① 地理歴史科の各科目間の関連を重視して、地誌的な学習において歴史的背景を踏まえた考察を行う。
- ② 地図の読図や作図などの作業的、体験的な学習活動は、思考力・判断力・表現力等の育成を図る観点から重要であるため、大項目(1)を設定するなど内容全体で地図を活用した学習を一層重視する。
- ③ 現行では、系統地理的考察、地誌的考察、主題を設定しての考察の三つの方法を用いることで現代世界の地理的認識を深めさせることが求められていた。一方、新学習指導要領では系統地理的な学習で習得した知識・概念や地理的技能を活用して地誌学習を行う。

特に③では、系統地理的考察と地誌的考察が横並びの関係ではなく、習得から活用へという学習過程を踏まえて、さらに地誌学習を充実させるようにするねらいがあると考えられる。

2 新学習指導要領における地誌的考察方法

地理歴史編によると、地理Bの大項目の(3)「現代世界の地誌的考察」については、「現代世界を構成する諸地域の地域性と諸課題を、選択した地域の学習を通して多面的・多角的に考察し、理解させることによって、現代世界の地理的認識を深め、世界の諸地域を地誌的に考察する方法を身に付けさせることを主なねらいとしている」とある。このねらいを達成するため導入としての「ア 現代世界の地域区分」、中核としての「イ 現代世界の諸地域」、まとめとしての「ウ 現代世界と日本」の三つ

の中項目から構成されている。このうち、中項目イに関する内容の取扱いについて、「イについては、アで学習した地域区分を踏まえるとともに、様々な規模の地域を世界全体から偏りなく取り上げるようにすること。また、取り上げた地域の多様な事項を項目ごとに整理して考察する地誌、取り上げた地域の特色ある事象と他の事象を有機的に関連付けて考察する地誌、対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考察する地誌の考察方法を用いて学習できるよう工夫すること」と述べられている。

3 具体的な地誌的考察方法を基にした地理授業の展開例

オーストラリアは、地理的に次のような特色をもつ国である。

- ① 国土全体が南半球に位置し、北半球の日本と季節が逆になる。
- ② オセアニア州の中心となる国である。
- ③ 六大陸中面積は最も狭いが、一つの大陸で一国をなす。
- ④ 地形・気候などの自然環境に様々な特色がみられる。
- ⑤ 多民族国家であり、人種・民族の構成に特色がある。
- ⑥ 貿易や観光などで、日本との関係が深い。

そのため、表1に示したとおり各校種の地理的分野の学習においてよく取り上げられている。

表1 各校種のオーストラリアに関する内容

小学校	第5学年 ・鉄のふるさとをたずねよう(教育出版) 第6学年 ・日本とつながりの深い国々(教育出版)
中学校	第2学年 ・産業と文化のつながりからオーストラリアを調べる(東京書籍) ・自然と人々から調べようーオーストラリアを例にー(教育出版)
高等	○ 国家規模の地域の調査 オーストラリア(帝国書院)

学校	○ 国家規模の地誌 土地の開発からみるオーストラリア (二宮書店)
----	---

そこで、このオーストラリアを事例地域として、2で示した具体的な地誌的考察方法を基にした地理授業の展開例を述べる。

(1) 「取り上げた地域の多様な事象を項目ごとに考察する方法」の展開例

○ 地域区分の指標：「農牧業」

ア 学習目標

農牧業を指標とした地域区分を基に、企業的農牧業が盛んなオーストラリアを取り上げ、同国の多様な事象を自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教などの項目ごとに整理して考察する(思考・判断)。

イ 主な展開例

主な学習活動	
導入	1 学習課題を確認する。 オーストラリアはどのような特色をもつ国だろう。
展開	2 農牧業の特色を確認する。 ・企業的穀物農業－小麦 ・企業的牧畜－牧羊、牧牛 3 農牧業の特色をオーストラリアの歴史的背景を踏まえ、気候や地形、貿易などに関連させて整理する。 ・小麦－南東部の年降水量500mm前後のマリー・ダーリング川流域 ・牧羊－年降水量250～500mmの大鑽井盆地で掘り抜き井戸の水を利用 4 事象と事象のつながり、そのつながり全体を通してオーストラリアの地域的特色を確認する。 5 気候変動による穀物の不作や燃料用アルコール生産の増大等に伴う穀物価格の高騰が、食料問題に深刻な影響を与えているといった地球的課題をまとめる。
終	6 本時のまとめを行う。 オーストラリアは地形や気候の特色を生かして、企業的農牧業を展開し、

末	世界的な穀物の供給に大きな影響力をもつ。
---	----------------------

この地誌的な考察方法は、一般的に行われてきた方法である。これまでの地誌学習に多くみられた単に項目ごとに整理してまとめ、理解させるのではなく、例えば大地形と資源の分布、農牧業と地形・気候の特色などといった整理された事象と事象との関連を生徒に十分考察させるとともに、取り上げた地域の特色について理解を深めさせる。またその学習を地球的課題の理解につなげていくことが求められる。

(2) 「取り上げた地域の特色ある事象と他の事象を有機的に関連付けて考察する方法」の展開例

○ 地域区分の指標：「移民」

ア 学習目標

移民を指標とした地域区分を基に、オーストラリアを取り上げ、同国の人種・民族の特色について、イギリスとの関連や白豪政策、産業開発、人口問題などの事象と有機的に関連付け考察する(思考・判断)。

イ 主な展開例

主な学習活動	
導入	1 学習課題を確認する。 オーストラリアはなぜ多くの移民を受け入れているのだろう。
展開	2 オーストラリアの先住民を確認する。 3 18世紀のイギリス人による発見とイギリス人の開拓移民が増加した歴史的背景を確認する。 4 白豪政策とはどのようなものかを確認する。 5 第二次大戦後の労働力不足に伴う産業開発の遅れなどもあり、白豪政策が転換されたことを確認する。

開	6 移民の出身地域に変化がみられることを資料を基に確認する。 7 人口移動の例として、民族対立や内戦などによる混乱から逃れるため、難民の数が増大しているという地球的課題をまとめる。
終末	8 本時のまとめを行う。 オーストラリアは多くの移民を受け入れることで国内産業の発展に努めている。また、多様な文化を尊重する社会を作り上げている。

この地誌的な考察方法は、今回の学習指導要領の改訂を受け、新しい中学校社会科地理的分野にも取り上げられた。中学校・高校の学習を通して、ある地域にみられる多様な事象の中から、特色ある事象を取り上げてそれを中心に据え、他の事象と関連付ける指導を行うことで生徒は社会的事象の関連について考察することができる。

(3) 「対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考察する方法」の展開例

○ 地域区分の指標：「貿易」

ア 学習目標

貿易を指標とした地域区分を基に、ともに広大な面積をもち各種の資源に恵まれているカナダとオーストラリアを取り上げ、両国の相違点、共通点を明らかにし、両国の地域的特色を考察する(思考・判断)。
--

イ 主な展開例

	主な学習活動
導入	1 学習課題を確認する。 カナダ(以下「加」と表記)とオーストラリア(以下「豪」と表記)はどのような相違点や共通点があるのだろうか。
	2 両国の地理的な位置を地図帳を用いて確認する。

展	3 両国の主要貿易相手国、主要輸出品を調べる。 <主要貿易相手国(2006)> ・加-アメリカ合衆国 ・豪-日本・中国 <主要輸出品(2006)> ・加-工業製品(自動車, 機械類) ・豪-鉱産資源(石炭, 鉄鉱石)
開	4 両国の民族構成や主要な宗教を調べる。 <民族構成> ・加, 豪-少数民族も多く住む多民族国家 <宗教> ・加, 豪-キリスト教が中心
終末	5 両国がイギリスから独立し、政治的・経済的な影響を受けていることを確認する。 6 南北問題や南南問題等の経済に関する地球的課題をまとめる。 7 本時のまとめを行う イギリスから独立しその影響を受けている両国であるが、貿易面など相違点も多く、資本主義国としてそれぞれ特色ある独自の発展を遂げている。

これまでは一つの地域の特徴をとらえる地誌学習が中心で、この地誌的な考察方法はあまり行われてこなかった。二つの地域を比較し、それぞれの特色ある事象を浮かび上がらせ考察させることで生徒の地理的見方や考え方を培うことができると考える。

各学校においては、三つの地誌的な考察方法のそれぞれの特徴を生かした地理学習の充実に向け、具体的な実践例を積み重ねていくことが求められる。

<参考文献>

- ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編」平成21年12月
- ・ 文部科学省「中等教育資料」平成20年11月号 (教科教育研修課)